

イオンモール草津

AEON MALL KUSATSU

No. 13-003-2010更新
新築
物販/飲食

発注者	イオンモール株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	竹中工務店	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

湖畔にたたくエコショッピングモール

琵琶湖にかかる近江大橋を大津側から渡ってすぐという立地の特徴をふまえ、自然にとけこんだ「エコショッピングモール」を目指した。植生調査や風向調査、対岸や近江大橋からの眺望確認により土地の特性を把握して配置計画、外装計画に反映させた。シンプルな形態の組み合わせを基本とし、ヴォリュームのずれや屈曲を利用して400mに及ぶ巨大な施設のスケールをやわらげようとした。外装色も信楽焼色をベースに駐車場階の建物上部を濃い茶色としてまわりの緑や風景になじむものとした。琵琶湖側はスロープをコンパクトに立体化し、再生木ルーバーでフィルターをかけ樹木越しに対岸から望めるようにしている。地域に植生する約68,000本の苗木植栽をはじめ、従前の土地に自生していたチガヤやミズタカモジを圃場で育て、生きられる環境として里地ビオトープをつくりこの地に戻した。また、屋上緑化に琵琶湖の原風景をつくるチガヤを用いて太陽電池パネルの前庭に利用し、壁面緑化にも信楽緑化タイルを使用して可能な限りこの施設がこの土地にとけこむ工夫をした。サインもLED化を図るなど、景観的に配慮した。

モール空間は、吹抜部をつなぐブリッジ部分を階ごとにずらすことで、より変化に富んだ構成とし、上部から光を導くライトウェルをナイトページ用の換気口として利用しデザインと省エネ効果を両立させている。また、共用部の照度をこれまでより暗く設定し、照度のメリハリをつけることによって商業としての躍動感を守りつつ、専門店が際立つことで賑わいを演出した。

これらの地道な取組みに加え、氷蓄熱空調、高効率照明やエスカレーター自動運転、雨水・井水の有効利用なども取り入れ、総合的な判断のもと、CASBEE Sクラス認証を取得した。



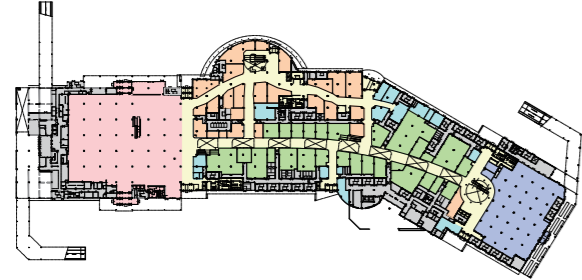
帰汎島より見る



近江大橋より見る



南外観

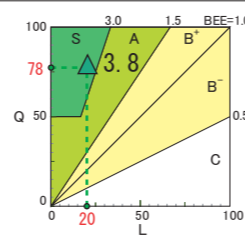


1階平面図

所在地	滋賀県草津市
竣工年	2008年
敷地面積	102,858m ²
延床面積	165,238m ²
構造	SRC造、S造
階数	地下1階、地上6階

省エネルギー性能	
PAL削減	76 %
ERR (CASBEE準拠)	57 %
LCCO ₂ 削減	60 %

CASBEE評価	
Sランク	BEE=3.8
2008年度版 第三者認証	



北側夕景



南側夜景

CASBEE 新築 2008 年版を用い、サステナブル建築を目指した設計を行った。

<p>Q1 室内環境</p> <p>屋光利用設備</p> <p>モール吹き抜け部においてライトウェル・ハイサイドライトによる屋光利用を行っている。</p> <p>照明制御</p> <p>避難階段・従業員用WCにおいて是人感センサーを設置。</p> <p>喫煙の制御</p> <p>建物は全館禁煙とし、各フロアに設けている喫煙所は個別に排気している。また、飲食テナント内も完全分煙を義務付けている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>ユニバーサルデザイン</p> <p>安全・安心・快適に楽しんでいただくため、ユニバーサルデザインを導入している。</p> <p>広さ感・景観</p> <p>天井高を 4.3 ~ 5m 確保し、吹き抜け空間を設け、開放的な空間形成とした。</p> <p>信頼性</p> <p>電力引込の二重化を図るとともに、電力・通信引込室を水害のおそれのない地上階に設置した。</p>	<p>Q3 室外環境</p> <p>湖畔ビオトープ</p> <p>琵琶湖の湿生草原の生態系を身近に感じることのできるビオトープを創出。</p> <p>苗木植栽</p> <p>地域に自生する苗木を、地域の皆さまとスタッフ 3,000 名で 20,678 本植樹した。</p> <p>緑化ブロック</p> <p>駐車場に緑化ブロックを設置。</p>	<p>エノキの保存</p> <p>昆虫や鳥類に食物を提供するエノキの大木を外部駐車場内に存続させた。</p> <p>絶滅危惧種の保護</p> <p>田んぼを復元し、絶滅危惧種ミズタカモジをはじめ、周りの植生を保全している。</p> <p>信楽焼</p> <p>琵琶湖の湖底土と信楽焼のコーレションによるモニュメントやタイル等を作成。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光の利用</p> <p>シネコン屋上に190kWを設置。南側外壁に10kWを設置し、合わせて200kWを発電。</p> <p>氷蓄熱システム</p> <p>夜間の電力で製氷蓄熱し、昼間の空調に利用することで、電力負荷平準化に寄与。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>井水・雨水利用</p> <p>トイレの洗浄水は井水・雨水を利用した中水を使用。</p> <p>県産材のルーバー</p> <p>屋上展望デッキには滋賀県産間伐材を利用したルーバーを設置。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>風シミュレーション</p> <p>風環境シミュレーションによる風害の予防と温熱環境の改善を図った。</p> <p>除害設備</p> <p>飲食店舗から出た排水をバイオ処理して、下水に流し、排水負荷を軽減。</p>	<p>壁面緑化</p> <p>各エントランスに信楽産苔タイルを使用。</p> <p>屋上緑化</p> <p>建設地からあらかじめ採取したチガヤを育苗し、植栽している。</p>

- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (植生調査に基づき絶滅危惧種や自生植物が生きられる環境をビオトープで保全)
 - Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (湖底土の再利用による焼き物制作、信楽緑化タイル)
 - LR1. 2. 自然エネルギー利用 (太陽光発電、ライトウェル、ナイトページ)
 - LR1. 3. 設備システムの高効率化 (氷蓄熱大温度差空調、高効率照明、LED照明)
 - LR1. 4. 効率的運用 (BEMSによる高度なシステム効率評価、CO₂の計測)
 - LR3. 2. 水資源保護 (雨水・井水再利用、節水型機器)